

単元名

～音読の工夫で登場人物になりきり、楽しかったことを伝えよう～
「くじらぐも」

本質的な問い

想像力を豊かにするためには

- 1 日時 令和3年 11月25日(木) 5校時
- 2 学年 第1学年 14名
- 3 単元について

単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語第1学年及び第2学年「読むこと」指導事項エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を受けて設定した。

本教材は、体育の時間に校庭で体操をしていた1年生と空に現れたくじらぐもとの交流を描いた物語である。体育の時間に校庭で起きた出来事、雲など、子どもたちが身近に感じることの出来る物語の設定になっている。創造と現実の世界が入り混じっており、物語の1年2組の子どもたちと自分たちとを重ね合わせながら、楽しんで読み進めていける作品である。そのため、想像することの楽しさを味わわせ、楽しんで表現しようとする態度を育てることができる教材である。

また、本教材は、会話文や動きを表す叙述が多いので、登場人物の行動から読み取ったことを、声の大きさ・速さなどを話し合いながら音読の工夫を考えたり、動作化を取り入れた役割読みをしたりすることで、想像豊かに読ませることができると考える。

児童観

本学級の児童は、これまでの学習で、叙述から登場人物のしたことや言ったことを見つけ、動作化や声の大小などの音読の工夫をした。音読を楽しむことはできるが、登場人物の行動の理由や気持ちを具体的に想像することができず、音読の工夫に結び付けることができなかった。

レディネステスト（おかゆのおなべ）の結果は以下の通りとなった。

内容	正答率	誤答率
叙述から、登場人物が言った内容を読み取ることができる。	92%	8%
叙述から、場面の様子を読み取ることができる。	92%	8%

レディネステストの結果からも、登場人物や話の大まかな内容は理解できるが、本文の叙述と登場人物の行動が結びついていないので、登場人物の行動の理由や気持ちを具体的に想像する力が不十分であり、個人差が大きい。

内容	肯定的な回答率
動作化をして表現するのが好きである。	85%
叙述から登場人物のしたことを考えている。	62%
友達と自分の考えを伝え合うことができている。	77%
自分の考えを全体の前で話すことができる。	62%

アンケート結果から、音読することや、動作化して登場人物になりきる活動が好きな児童が多い。

しかし、本文に書かれている内容の大体を捉えながら読んだり、本文に書かれていることを根拠に考えたりすることに課題がある児童がいる。また、ペアでの学び合いの際に、自分の考えを相手に伝えるのが苦手な児童がいる。

指導観

指導にあたっては、次の3点の手立てを講じる。

- ①想像したことを具体的に確かめられるように、地の文と会話文とを読み分け、誰の会話文かを叙述を基に考えさせる。
- ②「子どもたち」と「くじらぐも」の役になりきって音読や動作化をして、想像した登場人物の気持ちや行動の理由を言語化し、音読の工夫を考えさせる。
- ③友達の音読を聞き合い、お互いの音読の工夫を見つけることを通して、自分の読みを広げさせる。

4 単元の目標

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

(知識及び技能(1)ク)

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

(思考力、判断力、表現力/C読むこと(1)エ)

○物語に興味を持ち、場面の様子を想像したり、声に出して読んだりしながら、楽しんで読もうとする。

(学ぶに向かう力、人間性等)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。((1)ク)	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを音読で表現したり、友達に伝えようとしていたりしている。

6 単元計画 (全9時間 本時 4/9)

単元を貫く問い 子どもたちとくじらぐものしたことや気持ちを想像しよう。

次	時	・学習活動 ○学習課題(学習者による設定) ☆主な切り口 ※留意点 ◎学力に課題のある児童に対しての手立て	評価規準 【観点・評価方法】
0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・中川李枝子さんの本を紹介する。 ※表紙や中の絵を見せながら紹介し、挿絵や題名を手掛かりにどんなお話か想像し、作品に親しみを持たせる。 	
一	2	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の設定・あらすじをつかむ。 ・挿絵を話の順番に並び替える。 ☆この場面に名前(見出し)をつけましょう。 ※挿絵を並び替え、名前を付けることで場面分けをする。 ◎ペアで話をして、内容をおさえながら並び替えをする。 ・「くじらぐも」はどんなお話なのか、一文で書く。 ※文の始まりは「一年二組の」、文の終わりは「お話です。」で書かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一年二組のみんなとくじらぐもが、お空で遊んだお話です。 ・一年二組の子どもたちが、くじらぐもにのってお空を泳ぐお話です。 ・一年二組の子どもたちと先生が、くじらぐもと一緒に空を旅するお話です。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎ペアで話をして、内容をおさえながら並び替えをする。 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を話し合い、好きな場面を伝え合う。 ☆「いいな」「すきだな」と思ったところはどこですか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでジャンプをするところが好きです。 ・くじらぐもに乗っていろいろなところへ行くのがいいなと思います。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ※誰が話した言葉か話し合い、実線と二重線で引く。 ※同じ場面を選んだ友達とグループになって好きな場面を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や登場人物の行動について、好きなところを見つけている。 【主・発言、行動】 ・会話文を工夫しながら、場面の様子が分かるように音読している。

	<p>4 本 時</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがくじらぐもに飛び乗ろうとしている様子を想像して読む。 ☆子どもたちとくじらぐもに分かれて音読してみよう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><子どもたち></p> <ul style="list-style-type: none"> 「おうい。」は、くじらぐもに届くように大きい声でゆっくり読みました。 「はりきりました。」と書いてあるので、「よしきた。」は、大きな声ではっきりと読みました。 「天までとどけ、一、二、三。」は、だんだん大きな声にして読みました。 三回目でやっと飛び乗ることができるので、三回目の「天までとどけ、一、二、三。」が一番大きな声で読みました。 <p><くじらぐも></p> <ul style="list-style-type: none"> くじらぐもは、早く一緒に遊びたくて応援の声が大きくなるから、だんだん大きな声で音読したいです。 一回目の「もっとたかく。もっとたかく。」より二回目の「もっとたかく。もっとたかく。」の方を大きな声で読みました。 </div> <p>◎視覚的にどのくらい飛んだかイメージできるように掲示をする。</p> <p>☆くじらぐもに飛び乗った子どもたちはどんな気持ちだろう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 「やったあ。やっと乗れた。」と喜んでいます。 やっとの思いでくじらぐもに乗れたので、大喜びしていると思います。 </div> <p>◎子どもたちとくじらぐもの気持ちを動作化をして想像させる。</p> <p>☆みんなで手を繋いで、くじらぐもに飛び乗るつもりで読みましょう。</p>	<p style="text-align: right;">【思・音読】</p> <ul style="list-style-type: none"> くじらぐもに飛び乗る様子を動作化するなどをして、子どもたちやくじらぐもの気持ちを考え、音読を工夫している。 <p style="text-align: right;">【知、思・音読】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語に興味を持ち、場面の様子を想像したり、声に出して読んだりしながら、楽しんで読もうとしている。 <p style="text-align: right;">【主・発言】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 空の旅をする様子を想像し、会話を付け加えて音読を楽しむ。 ☆くじらぐもに乗った子どもたちはどんな話をしているでしょう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><くじらぐも></p> <ul style="list-style-type: none"> みてごらん、これがみんなが住む町だよ。 すごくきれいな景色だろう。 <p><子どもたち></p> <ul style="list-style-type: none"> わあ、学校があんなに小さいよ。 みんなと空の旅楽しいな。 風が吹いて気持ちいいな。 くじらぐもくん、どんどん進んでくれ。 みんなで歌を歌いながら行こうよ。 </div> <p>◎自分の人形をくじらぐもに貼らせ、もし自分がくじらぐもに乗ったらどんなことがしたいか、どんなものが見たいか考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもに乗って空の旅をする様子を想像し、自分が考えた会話を付け加えるなどして、楽しんで物語を読んでいる。 <p style="text-align: right;">【思・発言、行動】</p>

6	<p>・これまでの授業の振り返りとして、一番心に残った場面を交流する。</p> <p>☆一日の出来事を登場人物になったつもりで絵日記に書いてみよう。</p> <p>※例として、簡易日記を板書する。</p> <p>※時間、登場人物、何をしたか、思ったことや伝えたいことを日記の中に入れさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・わたしは、体育の時間にみんなで手を繋いでくじらぐもに飛び乗りました。一回では飛び乗れなかったから、何回も声を合わせて飛びました。くじらぐもに飛び乗れたとき、嬉しくて、みんなと一緒にジャンプをして喜びました。</p> <p>・ぼくは、今日くじらぐもの上に乗って旅をしました。くじらぐもの上はふわふわで気持ち良かったです。学校が小さく見えて、面白かったです。</p> </div> <p>◎心に残った場面を考えるのが難しい場合は、一番好きな場面を選ぶように声を掛ける。</p>	<p>・話の流れを正確に理解し、自分の考えを日記にしている。</p> <p>【思・記述、発言】</p>
三	<p>7</p> <p>・グループに分かれて音読練習をする。</p> <p>◎これまでの学習内容を思い出すために、掲示を残しておく。</p>	<p>・会話文を工夫しながら、場面の様子が分かるように音読している。</p> <p>【知・音読】</p>
8	<p>・音読発表会をして、お互いの発表の良いところを見つける。</p> <p>☆友達の発表の良いところを見つけましょう。</p>	<p>・積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを音読で表現したり、友達に伝えようとしていたりしている。</p> <p>【主・音読】</p>
9	<p>・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。</p> <p>◎プレテストを行い、既習事項の定着を図る。</p>	<p>・本単元での学習内容を理解している。</p> <p>【知、思・テスト】</p>

7 本時の内容 本時（4／10）

(1) 目標

登場人物の様子や場面の様子を、想像を広げて読み、音読に生かすことができる。

(2) 展開

<p>学習活動 ○主な投げかけや発問 ・児童の反応</p>	<p>・達成のための手立て ☆評価規準【評価方法】</p>
<p>1 第3場面を音読し、学習場面を確認する。 ○何をしている場面ですか。 ・子どもたちとくじらぐもが呼び合っています。 ・子どもたちがくじらぐもに飛び乗ろうとしているところです。</p> <p>2 課題を設定する。</p>	
<p>子どもたちになりきって、くじらぐもに飛び乗ろう。</p>	
<p>3 登場人物になりきって音読の工夫を話し合う。 ○子どもたちとくじらぐもに分かれて音読を試みよう。 <子どもたちチーム> ・「おうい。」は、くじらぐもに届くように大きい声でゆっくり読みました。 ・「はりきりました。」と書いてあるので、「よかったです。」は、大きな声ではっきりと読みました。 ・三つの「天までとどけ、一、二、三。」は、だんだん大きな声にして読みました。 ・三回目でやっと飛び乗ることができるので、三回目の「天までとどけ、一、二、三。」は一番大きな声で読みました。</p> <p><くじらぐもチーム> ・くじらぐもは、早く一緒に遊びたくて応援の声が大きくなるから、だんだん大きな声で音読しました。 ・一回目の「もっとたかく。もっとたかく。」より二回目の「もっとたかく。もっとたかく。」の方を大きな声で読みました。</p> <p>○くじらぐもに乗れた時の子どもたちはどんな気持ちでしょう。 ・「やったあ。やっと乗れた。」と喜んでいます。 ・やっとの思いでくじらぐもに乗れたので、大喜びしていると思います。</p> <p>4 まとめの音読をする。 ○これまでの音読の工夫を活かして音読をしましょう。</p>	<p>・視覚的にどのくらい飛んだかイメージさせる。 ・同じ言葉でも、気持ちが違うことに気付かせ、違いが音読に現れるように補助発問をする。 ・挿絵や黒板の掲示を使って様子の変化などを捉えさせる。 ・相手チームの音読を「どのように読んでいたか」という視点で聞き、交流させる。 ・実際に考えた音読の工夫で音読させる。 ☆くじらぐもに飛び乗る様子を動作化するなどをして、子どもたちやくじらぐもの気持ちを考え、音読を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">【思・音読】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【ことば 活用ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語を入れる。 ・文末まではっきりと述べる。 ・自分の考えと比較しながら聞く。 ・相手に分かりやすく伝えるために理由を提示する。 </div> <p>・自分の人形を黒板に貼ることを通して、全員がくじらぐもに乗れたというイメージを掴めるようにする。</p> <p>☆物語に興味を持ち、場面の様子を想像したり、声に出して読んだりしながら、楽しんで読もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【主・発言】</p>

5 振り返りをする。

○今日の学習で次の学習に生かしたいことを書きましょう。

- ・友達の発表を聞いて、音読の工夫を考えることができました。
- ・登場人物の気持ちを想像したら、だんだん大きい声で読むといいことに気がきました。

8 板書計画

くじらぐも

㊦

子どもたちになりきって、くじらぐもにとびのろう。

くじらぐも

子どもたち
せんせい

くじらぐもの挿絵

- てをつないで
- まるいわになると
- ジャンプしました

「天までとどけ、一、二、三。」

○やっつと

三十センチぐらい

「もっとたかく、もっとたかく。」

○おうえんしました

「天までとどけ、一、二、三。」

「もっとたかく、もっとたかく。」

○五十センチぐらい

- おうえんしました
- ・1かいめよりも おおきいこえで
- ・あしをまげながら
- ・くやしいきもちで
- ・1かいめよりも おおきいこえで
- ・あしをまげながら
- ・くやしいきもちで

「天までとどけ、一、二、三。」

そのときです

- かぜがわたしたちをふきとばしました
- てをつないだまま
- くじらぐもにのっていました

㊧

・ともだちのはつぴょうをきいて、おんどくのくふうをかんがえることができました。
・子どもたちのきもちをそうぞうしたら、だんだんおおきいこえでよむといいとわかりました。